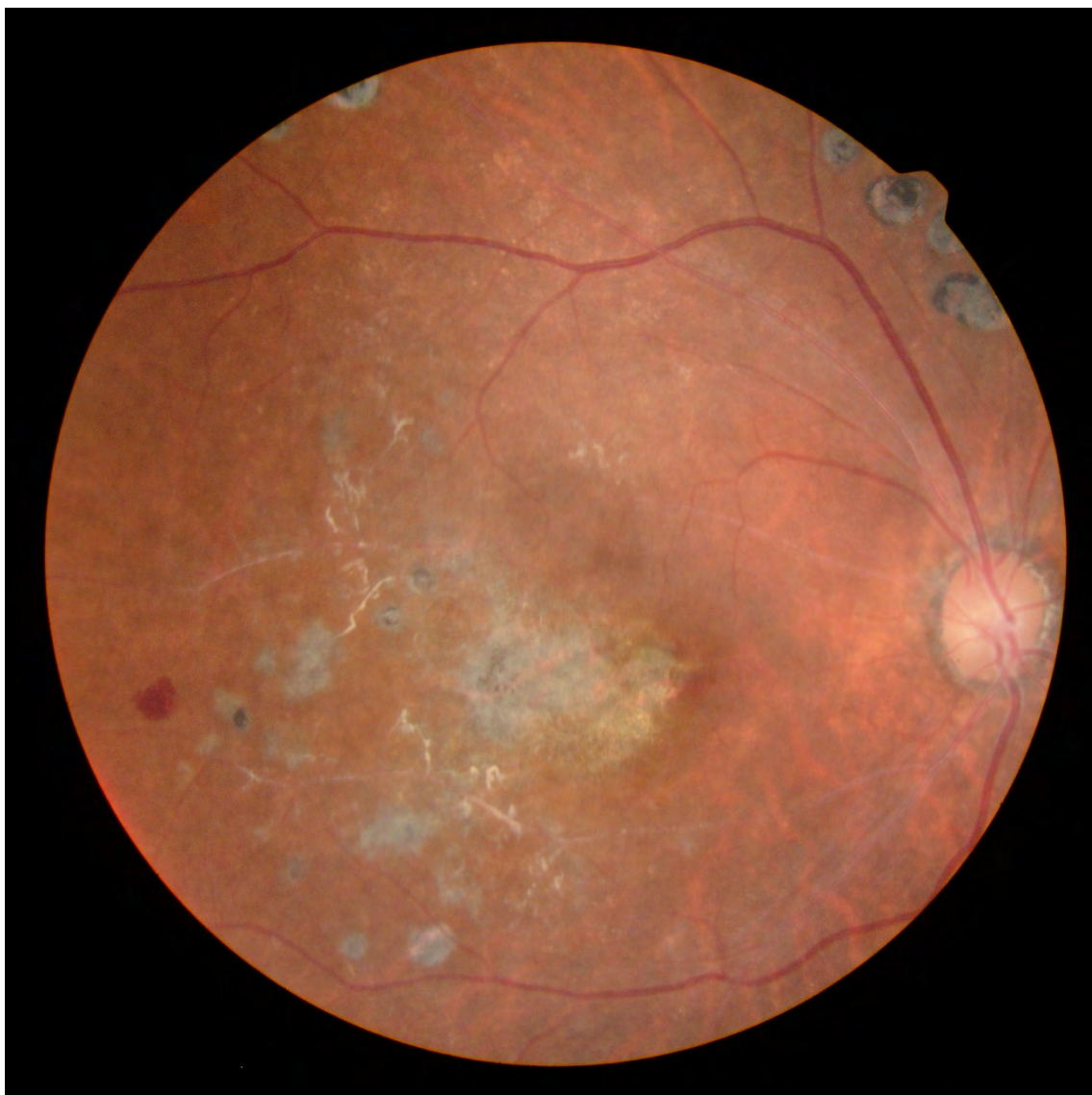


## ① 糖尿病網膜症



糖尿病網膜症は我が国の失明原因2位の疾患です。

糖尿病発症からの期間が長いほど網膜症を発症する頻度は高くなります。

また糖尿病の発症に気が付かなかった、健診などで高血糖があると指摘されても未治療のままであったために、網膜症が進行した状態で発見されることもあります。

網膜症を発症した状態で血糖値のコントロールを行っても

網膜症の進行を抑えることは容易ではありません。

また急激に血糖値を下げることで網膜症が進行することもあります。

糖尿病が疑われた場合はまず眼科も受診していただき

網膜症の有無を確認し、網膜症がなかった場合は3か月に一度、

網膜症があった場合は1か月に一度眼科での眼底検査を受けるよう心がけてください。

内科で眼底写真だけで経過観察されてる方も眼科受診をお勧めします。

## ② 高血圧、動脈硬化



眼は血管を直接見ることができる臓器です。

眼の血管に動脈硬化が見られた場合、他の臓器でも同様の変化が起こっていると推察されます。

眼の所見は網膜出血や白斑が見られます。

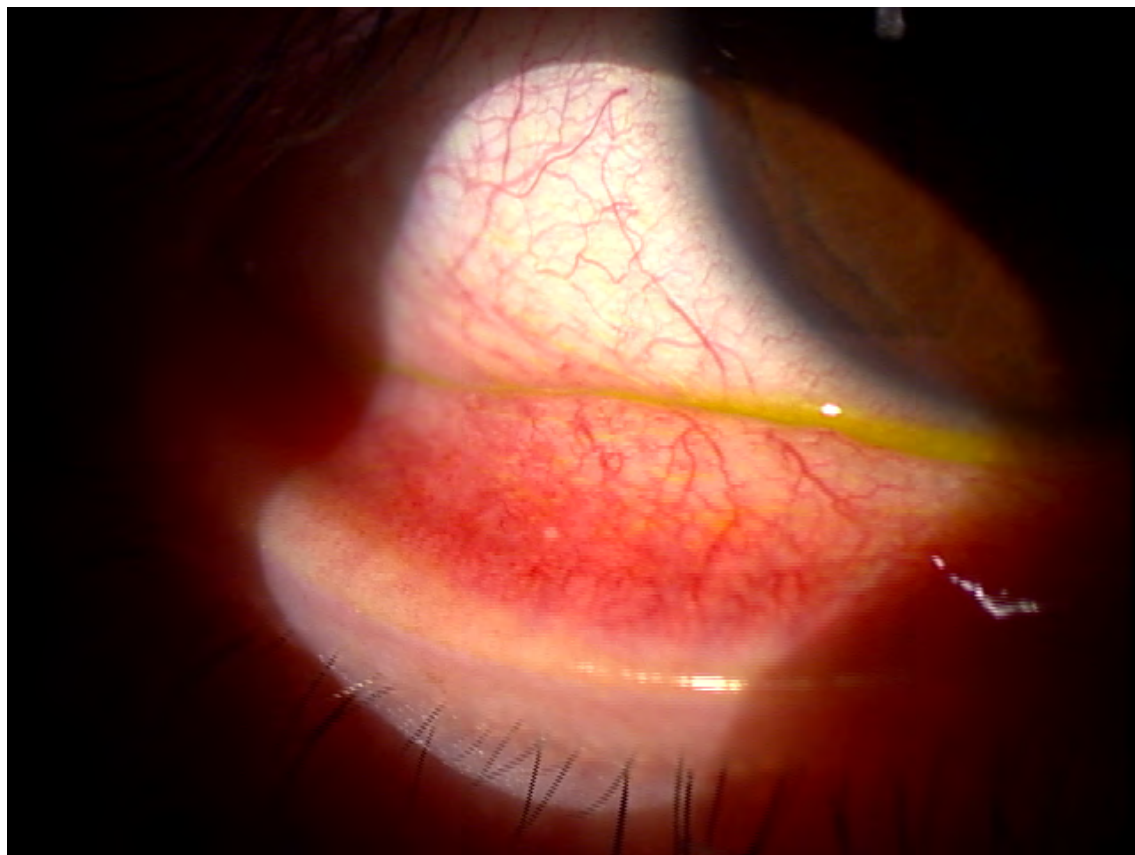
また若い方は動脈壁の加齢変化がないため所見が出やすい傾向にあります。

健診などで高血圧、高脂血症が疑われた場合はまず眼科を受診してください。

また眼底に異常があった場合は、程度によりますが1～3か月に一度眼底検査を受けられることをお勧めします。

尚、出血があった場合は速やかに精密検査を受けてください。

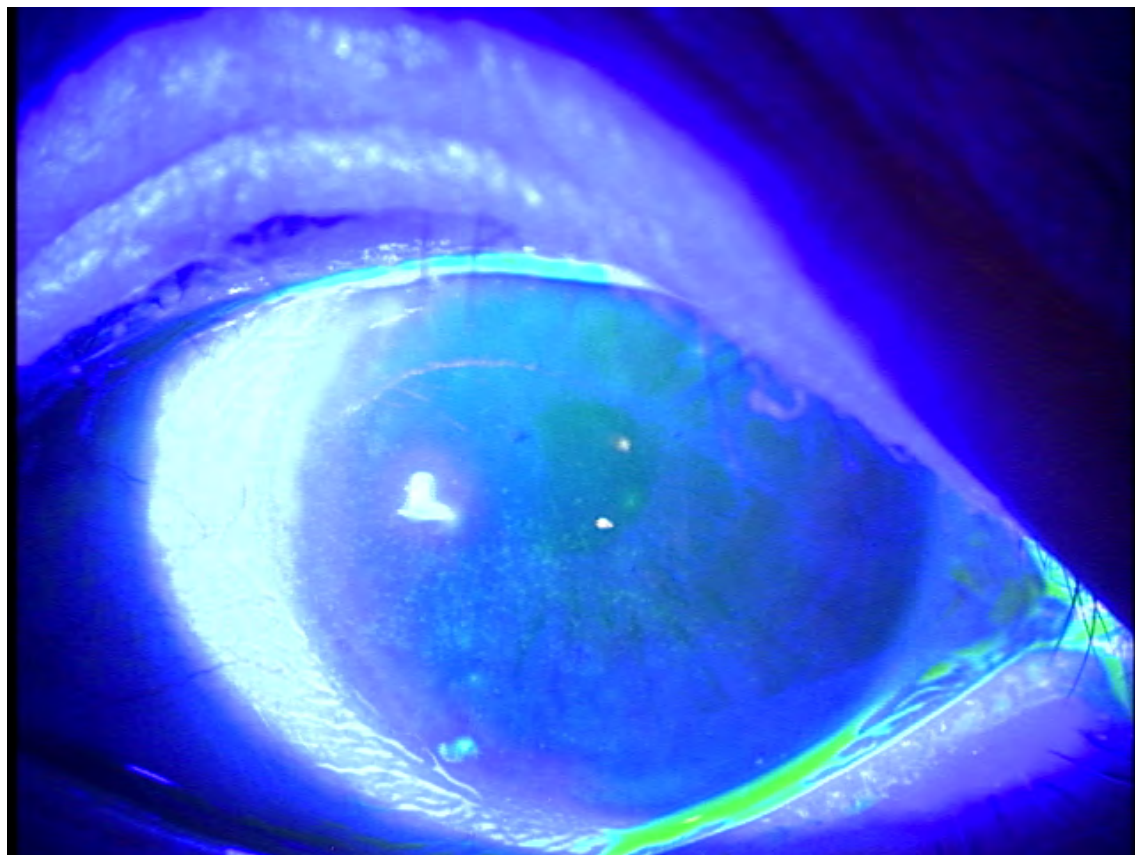
### ③ アレルギー疾患



喘息や鼻炎に結膜炎や眼瞼縁を併発することが多くあります。  
眼の症状だけであれば点眼薬などの局所治療を第一選択としますが  
症状によっては内服を併用した方がより効果がある場合もあります。  
アレルギー性結膜炎や鼻炎があった場合は内科も受診され  
アレルギーの検索や内服等の治療を検討されることをお勧めします。



#### ④ 膠原病



膠原病は多くの種類の疾患があります。  
また眼にもいろいろな異常が見られます。  
多くは角膜上皮障害、結膜炎ですが中にはブドウ膜炎や白内障  
網膜血管炎を発症することもあります。  
また治療に使用されるステロイドの副作用には眼圧上昇があります。  
続発性緑内障を注意する必要があります。  
眼科の定期的な受診も必要ですが、目の痛みや視力低下などの  
症状が出た場合はすぐに受診してください。

#### ⑤ 緑内障

緑内障の治療に用いる点眼のなかに喘息や心疾患のある方には  
使用できないものもあります。  
また内科で使用される薬の中には緑内障の方には使用を  
注意しなければならない薬剤もあります。  
緑内障と診断された場合、内科で不整脈などがないかチェックを受けてください